

# みんなでカレー作り

## 1. 個別の題材観

生徒名	個別の題材観	本時の目標
生徒A	<p>生徒Aは、相手の気持ちや状況が判断できず、暴力的な言動や大きな声が出てしまうこと、思ったことをそのまま口にしてしまうことが中心的な課題です。「みんなでカレー作り」は、他者と協同して一つの目標を達成する活動であり、役割分担や食材の共有、調理器具の安全な使用など、常に他者の存在を意識し、状況を判断しながら行動することが求められます。この活動を通して、他者への配慮や、集団の中で自分の言動を調整する機会を提供します。</p>	<p>カレー作りにおいて、他のメンバーの作業状況を観察し、危険な行動や不適切な発言を控えることができる。</p>
生徒B	<p>生徒Bは、いやなことや困ったことがあったときに、自分の気持ちを言葉で伝えることができず、我慢したり泣いて表現したりすることが中心的な課題です。カレー作りは、初めての作業や苦手な食材、調理中のハプニングなど、困りごとや感情が動く場面が多く想定されます。このような具体的な状況の中で、「熱い」「手伝ってほしい」「これは嫌だ」など、自分の気持ちや困りごとを言葉で表</p>	<p>カレー作りの中で困ったことや感じたことを、簡単な言葉で教師や友達に伝えることができる。</p>

	現する機会を意図的に設定し、それが受け止められる経験を積むことで、安心して自己表現できる基盤を育みます。	
生徒C	生徒Cは、空想の世界にいることが多く、集団で話を聞くことが難しい、また興味のない内容では集中が途切れることが中心的な課題です。カレー作りは、具体的な手順や視覚的な情報（食材、調理器具、手順カードなど）が多く、実践的な活動であるため、生徒Cの興味を引きやすいと考えられます。この活動を通じて、視覚的な指示や具体的な作業に意識を向けさせ、合図や個別の声かけによって空想世界から現実の作業へ意識を切り替える練習を行い、集団の中での活動への参加を促します。	視覚的な手順カードや教師からの個別の声かけ、合図によって、空想世界から作業に意識を切り替え、指示された工程の一部に取り組むことができる。

## 2. 集団で学習する意義

「みんなでカレー作り」という活動は、生徒A、B、Cそれぞれの個別の課題に対し、集団だからこそ得られる深い学びの機会を提供します。この3名が集まることで、お互いの特性が相互に作用し、個別の課題解決だけでなく、より豊かな人間関係の形成へと繋がる「学びの物語」が生まれることを期待します。

\* \*\*生徒A\*\*は、他者の気持ちや状況を判断し、自分の言動を調整することが中心的な課題です。このカレー作りという協同作業の中で、\*\*生徒B\*\*が困ったときに言葉で表現しようとする姿や、\*\*生徒C\*\*が視覚的な情報に集中して作業に取り組む姿を間近に見ることで、他者の行動や反応から状況を察し、自分の言動が他者に与える影響を具体的に学ぶ機会となります。特に、Bが「困った」と発した際にAがどのように反応し、自分の行動を調整できるかが、Aにとって重要な学びのポイントとなるでしょう。

\* \*\*生徒B\*\*は、自分の気持ちや困り事を言葉で伝えることが苦手で、我慢したり泣いて表現したりすることが多いです。カレー作りは、食材の準備や調理の過程で「熱い」「切りにくい」「手伝ってほしい」など、様々な感情や困り事が生じやすい場面です。このような具体的な状況の中で、Aのストレートな表現やCの独自の表現に触れることで、「言葉で伝える」ことの多様性を学び、安心して自分の気持ちを表現する練習の場となります。Bが言葉を発することで、Aがその言葉を受け止める経験をし、Aの課題解決にもつながるという相互作用も生まれます。

\* \*\*生徒C\*\*は、空想の世界に没頭しやすく、集団で話を聞き取ることが難しいという課題があります。この活動では、カレー作りという具体的な目標に向かってAやBが積極的に動き、互いに声をかけ合う姿を目の当たりにします。視覚的な手順や具体的な作業に集中する中で、AやBとの相互作用により、空想の世界から現実の活動へと意識を切り替えるきっかけが自然と生まれます。特に、Aの具体的な行動やBの言葉での表現が、Cの注意を現実の作業に引き戻すトリガーとなることが期待され、集団活動への参加意欲を高めることにも繋がります。このように、Aの他者への配慮、Bの自己表現、Cの集中力と集団参加というそれぞれの課題が、「みんなでカレー作り」という共通の目標に向かって協力する中で、相互に影響し合い、補完し合う関係を築きます。個別の指導だけでは得られない、集団だからこそ生まれる「学びの物語」として、お互いの成長を促すかけがえのない経験となるでしょう。

### 3. 学習の流れと個別の手立て

#### フェーズ1：カレー作りの準備をしよう！

##### \*\* 【全体の流れ】 \*\*

- \* 今日の活動「みんなでカレー作り」の流れと役割分担を確認する。
- \* 食材（野菜）の準備（洗う、皮をむく）を行う。
- \* 調理器具や材料の安全な使い方について確認する。

\*\* 【個別の動きと手立て】 \*\*

生徒名	生徒の動き	教師の手立て
生徒A	自分の役割（例：じゃがいもの皮むき）を理解し、他の生徒の作業スペースを意識しながら準備を進める。声の大きさに気をつけ、不適切な言動を控える。	「今、○○さんが野菜を洗っているから、少し待とうね」「もう少し小さな声で話してみようか」と具体的に声の大きさを調整するよう促す。他の生徒への不適切な接触が見られたら、「○○さんの肩を叩く代わりに、『手伝おうか？』って聞いてみようか」と代替行動を促し、他者への配慮を指導する。
生徒B	自分の担当する準備作業（例：にんじん洗い）を行い、困ったことがあれば言葉で伝える練習をする。	「包丁が怖いな」「ピーラーがうまく使えないな」など、困り感が見られたら、「何が困ってる？」「どうしたらいいかな？」と具体的な言葉での表現を促す。「困ったときは、先生に『手伝ってください』って言ってみようね」とモデルを示し、言葉で伝えることへの安心感を育む。
生徒C	視覚的な手順カードを確認し、空想に浸らずに自分の役割の準備作業（例：玉ねぎの皮むき）に取り組む。	大きな絵や写真付きの手順カードを個人に提示し、視覚情報に集中させる。空想に浸り始めたら、「○○くん、今、玉ねぎの皮をむく時間だよ。カード見てみて」と具体的な指示と視覚情報へ意識を向ける声かけをする。事前に決めた「合言葉」や「サイン」（例：肩をポンと叩く）で、空想から切り替える合図とする。

## フェーズ2：協力してカレーを煮込もう！

### \*\* 【全体の流れ】 \*\*

- \* 準備した食材を切る、炒める、煮込むといった調理工程を行う。
- \* 火や刃物など、調理器具の安全な使用に最大限注意を払う。
- \* 役割を交代したり、互いに協力したりしながら作業を進める。

### \*\* 【個別の動きと手立て】 \*\*

生徒名	生徒の動き	教師の手立て
生徒A	調理中の周囲の状況をよく見て、他者に配慮した行動をとる。危険な言動や大きな声での発言を控える。	「包丁を使っている人がいるから、近づきすぎないようにしようね」「熱いお鍋があるから、触らないように気をつけよう」など、具体的な危険予測と注意喚起を隨時行う。他の生徒が困っている様子であれば、「○○さん、何か手伝うことある？」など、建設的な関わり方を促す。
生徒B	調理中に感じたことや、熱い、危ないなどの情報を言葉で伝える。	熱いものに触れそうになった際など、「あぶない！」「熱い！」など、瞬時に言葉で伝える練習を促す。もし我慢して泣きそうになつたら、「どうしたの？何があったか教えてくれる？」と優しく促し、言葉で表現できたことを具体的に褒め、成功体験を積ませる。
生徒C	調理の具体的な指示を視覚情報と個別の声かけで理解し、作業（例：炒める、ルーを入れる）に参加する。	調理工程のステップごとに、視覚的なチェックリストや写真付きの手順書を提示し、集中を促す。個別の作業指示は、Cの目を見て、明確な言葉で短く伝える。「次はタマネギを炒めるよ、ここに置い

		てね」など。手遊びが始まつたら、「〇〇くん、お鍋の中を見ようね」と、作業に意識を戻す声かけをする。
--	--	---

### フェーズ3：みんなで美味しく食べよう・片付けをしよう！

#### \*\* 【全体の流れ】 \*\*

- \* 完成したカレーを盛り付け、試食する。
- \* カレー作りの感想を共有し、活動を振り返る。
- \* 調理器具や食器の片付けを協力して行う。

#### \*\* 【個別の動きと手立て】 \*\*

生徒名	生徒の動き	教師の手立て
生徒A	試食中に他の生徒の感想を聞き、自分の感想を適切な言葉や声の大きさで表現する。片付けも協力して行う。	「〇〇さんのカレー、どうだった？」「どんな味がした？」など、他者の感想を聞く機会を作り、自分の感想を共有する場を設ける。 「〇〇さんは、どこが美味しいかった？」と具体的に聞く。片付けの際も、「みんなで協力すると早く終わるね」など、協同の意義を伝える。
生徒B	カレー作りの感想や、活動中の気持ち（楽しかった、難しかったなど）を言葉で伝える。	「カレー作って楽しかった？」「どんな時に嬉しかった？」「難しかったことはあった？」など、具体的な質問で言葉を引き出す。感情を表す言葉のカードなどを提示し、選ばせるのも良い。「大変だ

		ったけど、頑張って言えて偉かったね」と、言葉で伝えられた経験を肯定的にフィードバックする。
生徒C	振り返りの時間に、視覚的な手がかりや個別の声かけで、話を聞く姿勢を保つ。片付けにも参加する。	振り返りの時間を短く区切り、視覚的なタイマーや「お話の時間」カードなどを提示。発言する生徒の顔を指し示しながら「次は○○さんの番だよ」と視覚的に注意を促す。Cが空想に浸り始めたら、事前に決めた合図で意識を戻し、「今、○○さんが話しているよ、聞こうね」と促す。片付けは、具体的な手順を視覚的に示し、個別の指示で促す。